

# 地域の社会資源を活用した「居場所づくり」について



令和5年5月26日（金）  
東広島市健康福祉部地域共生推進課 森近  
東広島市社会福祉協議会地域福祉課 岡村



# ① 東広島市のご紹介

東広島市は広島県のほぼ中央。山にも海にも囲まれた豊かな自然が自慢です。  
人口増加中で、大学などの学術研究機関の集積や企業の立地が進み、成長を続けている都市です。

## 基礎データ

- 面積 635.15平方キロメートル
- 人口 196,608人 (R2・国勢調査)
- 世帯数 89,998世帯 ( // )
- 高齢化率 24.6% (R4.1月)
- 市内の大学生の数 16,718人  
(R3.5.1時点 統計でみる東広島)
- 広島大学、近畿大学工学部、広島国際大学
- 日常生活圏域 10地区  
※西条は北と南に分割
- 民生委員児童委員 317人



西条酒蔵通りの景色



広島大学東広島キャンパス



東広島市観光  
マスコットキャラクター  
のん太

市内には10の酒蔵があります。  
なかでも西条地区は兵庫の灘、京都の  
伏見と並ぶ銘醸地です！

## ② 組織

### 健康福祉部地域共生推進課



健康福祉部長  
(福祉事務所長)

地域共生推進課

生活福祉課

医療保健課

障害福祉課

地域包括ケア推進課

介護保険課

国保年金課

地域共生推進係

生活支援センター

・生活困窮者自立相談支援機関として社協に委託

HOTけんステーション

・重層的支援体制整備事業(多機関協働事業)  
・社協職員(多機関連携CSW※)も勤務  
※コミュニティソーシャルワーカー

#### 【主な業務】

- 1 ひきこもり支援ステーション事業 (R4~)
- 2 重層的支援体制整備事業 (R4~)
- 3 生活困窮者自立支援事業 (H27~)
- 4 民生委員児童委員事務局
- 5 援護業務

生活支援センターとHOTけんステーションは市役所内にあり、そこに社協職員も勤務しています。日頃から市と社協で協働しやすい環境になっているのが本市の強みです！



### ③東広島市のひきこもり支援ステーション事業

#### 2022年度の事業実施状況

- 1 相談支援  
地域共生相談員（1人）をHOTけんステーションに配置し、ひきこもり等の相談支援を実施
- 2 ネットワークづくり  
高齢、障害、生活困窮、こども・子育て分野等の担当者が集う会議を開催（昨年度2回開催）
- 3 実態把握調査（7月～9月）
  - ①民生委員児童委員調査  
308人中229人から回答を得る。
  - ②福祉専門職調査（ケアマネジャー等）  
47事業所、150人から回答を得る。



調査結果はHP公開しています！

#### 【両調査の結果概要】

- ・回答者の約3割が関わっている世帯にひきこもり状態にある人が「いる」と回答
- ・提供された事例において、20年以上ひきこもり状態にある人が1割
- ・「個別、長期的に本人や家族に関わることができる支援」の必要性を挙げる回答が最多だった

#### 4 居場所づくり「コラボ農園」

## ④居場所づくり ～コラボ農園が始まるまで～

○なにが課題だった？

生活支援センターやHOTけんステーションでは、様々な相談を受け付けていますが・・・

- ・ひきこもり状態で長らく社会との接点がない方への対応に苦慮していたこと
- ・既存の社会参加支援（就労支援等）に行き詰まった方がいること



岡村CSW  
(当時)

次の一步に繋げたい。でも、もっと楽しくできないものか・・・

「畑仕事をしてみたい」という相談者の方が時々いるんです。  
自分のペースで太陽の下で、植物の成長を見ると前向きになれるのかも



生活支援センター相談員

○そんな時、民生委員さんが声をかけてくれました！（2021年秋）



「畑やってみたい」と聞いてよ。  
しばらく使っていない土地があるんだけどやってみる？



民生委員さん

手探りでしたが、ひとまず役割を決めて始めてみました！



- ・畑を借りる予算の整理（地域共生推進課）
- ・来てほしい人への声掛け（生活支援センター・社協CSW）

## ⑤ 昨年度（2022年）の実績

### ① 耕し始める（3月）



まず畑を耕すことからスタート。そこにジャガイモを植える作業をしました。農機具は社協OBから借り、農業指導は地元の農家さんに協力して頂きました！（生活支援センターの利用者も参加）



### ② 少しずつコラボの輪が広がる



色んなコラボで生まれたから「コラボ農園」！

雑草の生命力はスタッフの想像を超えていました！定期的に近隣の住民さんや、大学生が草取り作業に参加してくれました！



### ③ 収穫の喜びをみんなで（6月）



収穫したジャガイモは「ノフクマルシェ（※）」で無料配付しました！この時にも生活支援センターの利用者さんが参加してくれました！

※東広島市の農福連携事業として開催される障害者支援施設による製品の販売会（障害福祉課担当）

これ以降も色々な野菜にチャレンジしています。（秋にはサツマイモが大量！）  
作業は合計30回、利用者は約80人（延べ）、参加ボランティアは約60人（延べ）



## ⑥ 振り返り

### 1 なぜ実現できたのか？

#### ①市（地域共生推進課）と社協（生活支援センター、CSW）の協働基盤

- ・同じフロアで業務しており、連携しやすい環境があった
- ・生活支援センターの相談者に声掛けすることで参加者を確保できた

#### ②地域住民の理解と協力

- ・畑の維持管理に地域住民（ボランティア）が協力してくださったこと
  - ・地元の農家さんが指導してくださったこと
- ⇒日頃から社協職員が地域との信頼関係を築いているからできた！

#### ③ひきこもり支援ステーション事業という位置づけにしたこと

- ・市の事業として実施する安心感
- ・市の職員も業務として参加できる

東広島市ではコミュニティソーシャルワーカー（CSW）を12人配置し、福祉のまちづくりを進めています！（社協に委託）



### 2 課題（悩み）もある・・・

- ①積極的に公開できない（利用者への配慮が必要）
- ②維持管理は本当に大変（簡単に地域に広げられる取組みではない）
- ③長期的にこの事業（居場所）をどうしていくべきか整理が必要（事業の持続性と柔軟性のバランス）

## ⑦ 最後に・・・参加者の声を紹介します！



畑に行ってほんの少しの作業だったのに、爆睡して朝スッキリ  
起きれました(\*^▽^\*)  
立派なサツマイモを掘れて、嬉しかったです！収穫だけをさせて  
もらっちゃって、贅沢な時間でした(o^^o)  
土に触れるのって、すごく気持ちいいですね♪

畑に行かないよりも行く方が体調が良いように思うんです。野菜の青々とした色をみ  
ると元気になります。毎日少しずつ変化があって・・・ホントすごいなって思います。

玉ねぎちゃんが少しずつ成長してるのが嬉しいです♪  
社協スタッフブログ見てますよ～

【東広島市社協スタッフブログ <http://h-syakyo.sblo.jp/>】※現在はInstagramに移行



**まだまだ試行錯誤ですが、人や地域にプラスの効果がある場所にしたいと考えています。**